ひまわりからのメッセージ

178号
2026.11.16
NPOひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター
発行人：中野たみ子

子どもたちの やさしさに癒されて

先日のことです。保護者相談の日、お母さん達から集団生活の中で心配しているというお話を聞き、Hこども園を訪問しました。

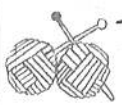
三歳児のクラスに入り、「みんなが遊んでいるところを見せてね」と挨拶をすると、Aちゃんが走って来て私の後に回ります。どうしたのかなあと思っていると、片付けてあった園児用椅子の中から一脚を取り出して「どうぞ」と勧めてくれるのです。そして、自分は元の席に戻って行きました。園長先生は「えっ、この子が……」と驚いておられましたが、私は「ありがとう」とAちゃんの心づかいに胸があつくなりました。

三歳児クラスに別れを告げて、次は五歳児クラスです。

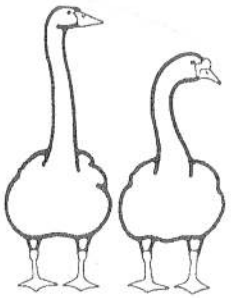


「どこから来たの」「名前は？」園訪問に行くと、いつも聞かれる質問です。ちょうど給食の時だったので、私は自己紹介の後「給食、おいしそうでいいなあ、みんなは上手に噛めるのかなあ」と言うと、クラス全員が口を大きく動かして私の方を向いて噛んで見せてくれました。「すごいね、みんな上手だね」と褒めると、Bさんが「先生もここで一緒に食べようよ」と、自分の隣席に誘ってくれます。「ありがとう。でも、先生はもう帰らなくちゃならないんだよ」「えーっせっかく来たんだから遊んでいけばいいのに」。すると、Cさんが胸の小鳥のブローチに目を止めて、「今度来る時は、飛行機つけて来て」。Bさんも「ハートマークもつけて来て」。等々子ども達との会話はなかなか終われませんでした。どの子もお母さんが心配していた子達でしたが……。でも集団行動からはみ出したり、時々暴言を言ったりする子ども達の心の中には、相手を思いやる心がしっかり根づいているのです。表面だけが子どもの内面の真実ではないのだと思うのです。おそらくこの園では、子ども達に寄り添い共感しながら保育して下さっているのでしょう。

この日は、本当に多忙で帰宅したのは午後七時半を過ぎていましたが、私の心の中にはずっと子ども達のやさしい声が残っていました。感謝の一日でした。



「構音指導」って何だろう？



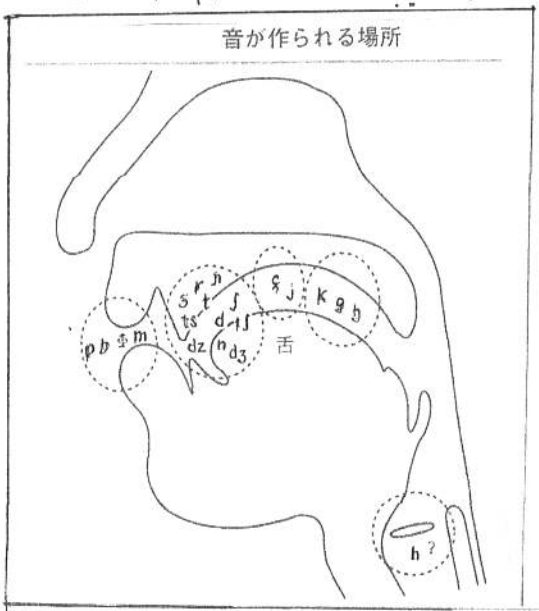
どこの市町でも教育支援委員会が終わり、言語通級の子どもたちのことも話し合われました。ことばに関する子どもたちの実態が明らかになったと思いますが、少し気になることもあり、今回は前回につづいて言葉について書いてみます。

一歳すぎに初語が出てきた子どもたちは二語文、三語文、そして文章表現へとおしゃべりの数が増えていきます。

しかし、子どもたちは、口周辺のどんな所を使って、どんな音を出しているのでしょう。ちょっと専門的になりますが下の図は、頭を正中線（まん中）で断面として表したものです。

でも記号で書いてあるので、これは何だろうと思われるものもありますね。実は日本語の五十音と音声記号は異なっているということです。

もちろん、言語通級の先生方は、そんなことは当然ご存知のことですが、少し説明しておこうと思います。



相野田紀子ほか：口蓋裂の言語臨床，p.122，医学書院，1997，を一部改変

前回も記述しましたが、話しことばは、楽しい相手、聞いてくれる相手に「話したい」と思うからこそ育ってくるものです。

一対一のコミュニケーションというのは話し手と聞き手が交代しながらの関係で、スマホ相手では育ちません。しかも乳幼児期の話しことばは訓練とかトレーニングで育てるものではないのです。どうやら、「早くから訓練すべきだ」という論理が最近は幅をきかせて来ている様で、私は危機感をもっています。

ことばの教室に通う子の多くは機能性構音障害と呼ばれる困りをもっています。器質性構音障害とは異なり、医療的なアプローチが必要のない子ども達です。しかし、指導に当たっては、構音の発達についての知識が必要です。

どの年齢でどの音が発音できるようになるのかという

<音声記号>

p (パ		pj (ピャ)	
b (バ		bj (ビャ)	
m (マ		mj (ミャ)	
k (カクケコ)		kj (キャ)	
s (サスセソ)		ʃ (シャ)	
t (タテト)		tʃ (チャ)	
		ts (ツ)	
h (ハフホ)		ç (ヒ)	
n (ナヌネノ)		ɲ (ニャ)	
j	(ヤユヨ)		
ɾ (ラルレロ)		ɾj (リャ)	
w	(ワ)		
ŋ	(カ゜)		
ɴ	(ン)		
z (サズゼゾ)		ʒ (ジャ)	
d (ダデド)		dʒ (ヅ)	
g (ガ		gj (ギャ)	

と、実は諸説あるのですが、経験上、次のような順番が多いように思います。

母音
↓
パバマ（口唇）
ヤワ
↓
タダナ（前舌）
↓
カ　が　カ°（前舌下げる）
↓
サザ　チャシャ
ツ
ラ　行（舌先）
拗音明瞭に

タ・ダ・ナ行の音よりもカ・ガ行は遅く、サ・ザ行音やツ、ラ行音などは一番遅くに獲得される音になります。年長児がラ行とダ行の聞き取りが不十分だったり、日本語五十音のタ行のうちのツが言えなかったりするのは、構音の発達からすると当然のことなのです。

構音指導はどの音から？

では、構音指導をする時、どの音から始めるのかと言うと、発達上、先に獲得する音から始めるというのが普通です。その児が、カ行音が言えずタ行音に置換していることと、サ・ザ行音が言えずタ・ダ行に置きかわっているのであれば、先にカ行音から指導を始めます。しかし、もしサ行の中でスが出はじめているのであればそちらを優先させることもあります。最も日本語でサ行と言っても、発音上Sはサ・ス・セ・ソであってシは〔と書きシャ行の仲間ですから、シが言えるからと言ってS音指導とはなりません。発音標記をしっかり頭に入れておくことが大事です。

先日「言語学級に子どもを通わせているがカ行もサ行も全く変わらないんです。もう一年以上になります。」との相談を受けて驚きました。カがタになってしまうのは前の舌が上がってしまうからです。知的な遅れがなく、自分はカ行が言えないと知っている児であれば鏡を使って舌の前方を押さえてみるように指導するだけで理解できる児はたくさんいるはずです。そして家庭で一日十問の宿題を課すだけで、遅くても三ヶ月もあれば日常会話は正しく話せるようになるはずです。もちろん毎日の宿題練習は欠かせません。

構音指導の手順は？

① 単音で正しく発音する。
← 単音を定着させるため単音練習一日十回
② 単音で正しく言えたら、その音を語頭にして、無意味音を発音する。（例・カア・カエ・カヒ など）
← 無意味音節十問を一日一回練習
③ 語尾にその音をつけた無意味音（エカ・ヒカ等）
← 語尾につけた無意味音節十問を一日一回

④ 語中にその音をもってくる。（イカボ・ミカエ等）
例えばこの頃になると他のウ列やオ列などの音に進みたいが、あくまで基本の音をしっかり学ばせる。そして、無意味音節を作る場合、置換している音は入れない。（カテ・トカ など）

⑤ 単語練習・宿題は十問・日常会話で言い直しはさせない。
⑥ 二語文練習
⑦ 文章練習
⑧ 置換していた音が隣りにある文章練習
例・かたを たたく・たかい木がかたまって立っている

言語学級では、指導の手順を頭におきながら、一人ひとりのお子さんの口腔の状態や言語理解などに考慮しながら指導を進めていかれると思います。

では、通常学級では、どんな配慮がされているでしょうか。

「言ってごらん」と、ことばを強要される場面はないでしょうか。自信がないために小さな声しか出せない子に、子ども達が「聞こえませーん」と言った時に、傍にいて、「先生には聞こえたよ」とフォローして下さっているでしょうか。

ことばを強要されると、自信のない子の心は萎えてしまいます。発音の誤りを正して良いのは言語学級の中だけにしていただきたいのに、日常会話の中でも誤りを指摘し言い直しをさせることが指導だと思われているとしたら大きなまちがいです。

子ども達が安心して話せる場を作ってあげてほしいのです。早口のためにその児の言っていることがわからないのであれば大人の方がテンポを緩めて話してみてはいかがでしょうか。「早口だから分からないでしょう」と、その児の責任にしないで、聞き手である自分の聞き取りのまずさだと思って下さる様なやさしさが持てたら良いですよね。

人と人との関わりがますます希薄になっていくような社会の中で、人と話すのが楽しいな、話を聞いてくれる人がいて嬉しいなあと、子ども達が感じてくれたら、良いですよね。構音指導が楽しい場であってほしい、自信がもてる場になって欲しいと願っている私です。

12月の予定

2日(水) ピアサポート
3日(木) ネットワーク研（撫養川）
4~11日 垂井巡回
10日 チーム会議
9日(水) 大野中人権講座
14日(月) 親の会
14日と23日 安八町保育士会
15日 ひきこもり講演
16日 大垣児童館
療育スタッフ研（輪之内）
22日 撫養川アップル

今年もあと1日半ですね。
寒さに負けず…!!